住民が扉戸を開けることで隣接の両隣だけなわばりが拡張され、オープンな状態は他者との交流を促す。

もともとの住民が月に一度開くカーテン、設置必ぶ抽まりプライベートな空間がパブリックに変化する。

寝床、靴、就寝がゆるやかな公私の境界を生み出す。住民以外は近づきにくくなる。

建築好きの主人が工房で演員をつくり、無数に存在する柱を使い倒そうとしている。

自分の所有物をシェアしようと柱を活用している。通路側に向けられた窓からは通行人への合通し。

開けた場所に人々が集う。あえて広間はこちらの方が居心地が良いのでメインのリビングになっている。

裸貸しの野性的再編

スケルトンインフィルの今昔

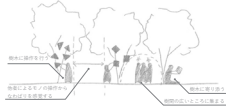
近世の大阪では、①商人であふれかえっていたこと②京間の寸法体系が用いられていたこと③インフィル産業が盛んであったことなどを背景に、現在のスケルトンインフィルの前身となる「裸貸し」という概念が存在し、作ることと住まうことが合致した能動的な暮らしがなされていた。

しかし、裸貸しを現代編として取り入れたNEXT21では住民のライフスタイルに合った空間を設計者が提供する受動的な暮らしがなされており、作ることと住まうことの乖離が生じている。そして、今日におけるデジタル技術の発展も相まって人間が本来備えていた身体性や野性的感覚は薄れつつある。

野性的な住まい

住民が自らの身体とモノを通じて空間から場所や他者との距離感を見出していくことで、人間が己の内側に孕んでいる野性や身体性を刺激する住まいのあり方を提案する。

野性的な暮らしとは
・自らの身体をとモノを通じて発見的に空間を秩序づけること
・自らの行動によって他者との距離感やなわばりを規定すること

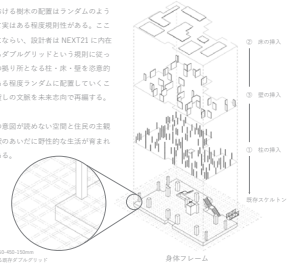


森に見る身体的・野性的な暮らし

設計者の操作

森における樹木の配置はランダムのように見えて実はある程度規則性がある。ここでは森にならい、設計者は NEXT21 に内在しているダブルグリッドという規則に従って身体の拠り所となる柱・床・壁を恣意的かつ、ある程度ランダムに配置していくことで裸貸しの文脈を未来志向で再編する。

計画の意図が読めない空間と住民の主観的な解釈のあいだに野性的な生活が育まれるのである。



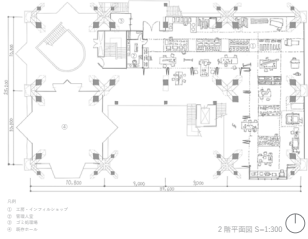
身体フレーム

住民の操作

2 階には住民や一般市民が自由に使うことのできる工房とインフィルのデータや実物を展示・売買することのできるインフィルショップを計画する。住民は工房である程度フォーマット化されたデータなどを用いて家具や建具といったインフィルをつくり、柱・床・壁からなる身体フレームに付加していくことで住まう環境を整えていく。

計画された無機質な身体フレームはインフィルを挿入することによって自由な使い方がなされたり、なわばり表示物となり、生きた住まいへと移ろっていくのである。

住民が製作するインフィルの例



N00159

裸貸しの野性的再編

石井 涼也(広島工業大学)